

考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民（これみ）と名付けました。

本朝十二銭（皇朝）と富寿神宝

708年に鑄造・発行された和同開珎以降、963年に鑄造を中止した乾元大宝まで、250年余りの間に朝廷によって鑄造・発行された十二種類の貨幣を本朝（皇朝）十二銭とよぶ。

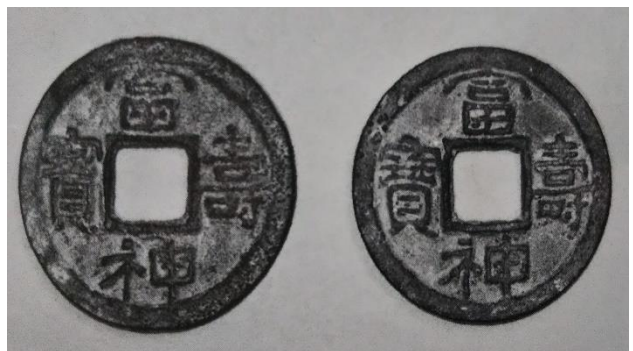
以下の発行順

- 1.和同開珎（和銅元年708年）■元明天皇
- 2.万年通宝（天平宝字4年760年）■淳仁天皇
- 3.神功開宝（天平神護元年765年）■称徳天皇
- 4.隆平永宝（延暦15年796年）■桓武天皇
- 5.富寿神宝（弘仁9年818年）■嵯峨天皇
- 6.承和昌宝（承和2年835年）■仁明天皇
- 7.長年大宝（嘉祥元年848年）■仁明天皇
- 8.饒益神宝（貞観元年859年）■清和天皇
- 9.貞観永宝（貞観12年870年）■清和天皇
- 10.寛平大宝（寛平2年890年）■宇多天皇
- 11.延喜通宝（延喜7年907年）■醍醐天皇
- 12.乾元大宝（天徳2年958年）■村上天皇

わがまち交野から昭和45年3月私市「月の輪の滝」入口、滝ヶ広（標高80㍍）の造成工事中土砂の中から甕形土師器(蔵骨容器)を発見。



中から皇朝十二銭の富寿神宝 50枚が確認されました。



富寿神宝

富寿神宝は皇朝十二銭の中で5番目に作られました。

定着しなかった古代日本の貨幣制度



708年、奈良・藤原京の政府は武蔵国から銅が献上されたことを祝い、元号を和銅と定め、日本最古の貨幣である和同開珎を鑄造した。だが、当時の日本はまだ物々交換が常識で、せっかく発行した貨幣も十分には流通しなかった、そのため政

府は、貨幣を貯めて政府に差し出した者にその額に応じた位を与えるちくせんじょいれい蓄銭叙位令

(711)を出すなどして、人々に貨幣を使わせようとするほどだった。

また、和同開珎以後は貨幣価値が下落の一途をたどり、貨幣自体も改鑄のたびごとに劣悪化していったため、貨幣に対する人びとの信用は失われていった。

958年、乾元大宝を最後の朝廷による貨幣鑄造は終わり、以後江戸時代まで、流通貨幣の本格的な鑄造は行われなくなった。

改鑄のたび質の劣化とは

万年通宝→10枚で和同開珎と等価

神功開宝→1枚で万年通宝1枚と等価。779年から和同開珎1枚とも等価となる

隆平永宝→1枚で旧貨(和同開珎・万年通宝・神功開宝)10枚と等価

富寿神宝→1枚で隆平永宝10枚と等価

承和昌宝→1枚で富寿神宝10枚と等価

長年大宝→1枚で承和昌宝10枚と等価

饒益神宝→1枚で長年大宝10枚と等価

貞観永宝→1枚で饒益神宝10枚と等価

寛平大宝→1枚で貞観永宝10枚と等価

延喜通宝→1枚で寛平大宝10枚と等価
乾元大宝→1枚で延喜通宝10枚と等価

最後の朝廷発行貨幣

図解古代史より

日本最古のお金

最新説…奈良・明日香での発掘成果から、天武天皇の政府が680年代、日本最古の貨幣である富本銭を発行したことが明らかになった。富本銭は飛鳥の宮都や続く藤原京などで使われた。

古代の銭貨は従来の見方から一つふえ、13種類になった。



1999.1.20 よみうり

飛鳥池遺跡から7世紀後半の遺構を発見、200基近い炉、人口池、建物群の跡が出土し、大規模な工房だったことがわかった。

その遺跡で「富本」の2文字をあしらった銅銭が300点近く出土した。



富本銭が出土してから20年、富寿神宝は6番目の貨幣となった。

歴史の教科書もこの説にそっている。